

平成30年度 群馬運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

＜主催：関東運輸局群馬運輸支局＞

- 日時：平成30年11月7日（水）14:00～16:00
- 場所：群馬県社会福祉総合センター 203会議室
- 議題：バリアフリーの現状と関東運輸局の取り組みについて（関東運輸局）
関東地方整備局のバリアフリーの取り組みについて（関東地方整備局）
高齢者等の公共交通における乗換え環境について（前橋市、高崎市、伊勢崎市）
- 講演：社会福祉法人群馬県社会福祉協議会 中越 信一 氏
意見交換

委員

- ＜座長＞湯沢 昭（公立大学法人前橋工科大学名誉教授）（敬称略）
- 中越 信一（社会福祉法人群馬県社会福祉協議会参事兼地域福祉課長）
- 飯塚 智宏（公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会）
（群馬県せきすい損傷者協会会長）
- 細野 直久（公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会）
（群馬県せきすい損傷者協会副会長）
- 木村 常昭（一般財団法人群馬県老人クラブ連合会常務理事兼事務局長）
- 堀米 泰晴（一般社団法人群馬県聴覚障害者連盟副理事長）
- 吉岡 公明（公益社団法人群馬県知的障害者福祉協会副会長）
- 上野 勝征（特定非営利活動法人群馬県精神障害者社会復帰協議会理事）
- 山田 智子（群馬県自閉症協会事務局）

参画（委員以外）

- 【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社高崎支社、東武鉄道株式会社、上信電鉄株式会社、上毛電気鉄道株式会社、わたらせ渓谷鐵道株式会社、一般社団法人群馬県バス協会、一般社団法人群馬県タクシー協会、群馬県個人タクシー協会
- 【関係行政機関】群馬県、群馬県警察本部、前橋市、高崎市、伊勢崎市、渋川市、中之条町、【その他】関東地方整備局、関東運輸局

講演

【社会福祉法人群馬県社会福祉協議会 参事兼地域福祉課長 中越 信一氏】「＜講演題目＞「社会福祉協議会が実施する生活支援の取り組みについて」

高齢者等の公共交通における乗換え環境について

- 【前橋市】前橋市地域公共交通網形成計画の重点施策の一つである、「地域内交通」についての説明。前橋市のモデルケースとして城南地区で導入を検討中。
- 【高崎市】近年、高崎駅周辺で大規模な集客施設の開発が続いており、平成29年に高崎駅西口駅前広場の再編整備を行った。整備後には、ロータリー内の走行車線が増えたことにより、多くの乗降スペースが確保され、また、障害者乗降場が2カ所、思いやり駐車場が1カ所設置された。
- 【伊勢崎市】平成20年度から運行しているコミュニティバス「あおぞら」の紹介。平成30年4月から有料となったが、65歳以上の方、障害のある方等一部無料で利用出来る方もいる。伊勢崎駅施設の改築工事や駅前広場の整備を行ったことにより、駅の利用者の乗換え環境の向上を図った。
また、バスロケーションシステム、デジタルサイネージの導入により、高齢者の方も安心してバスを利用できる環境づくりを行った。

会議での発言（委員より）

- ・車いすの方は、電車で外出した後バスに乗り換える際、車いす対応のバスがいつどこで運行されているかわからないため、接続のネットワークを明確にしてほしい。
- ・関東運輸局の発表資料、P.10「リフト付バス又はスロープ付バス」の整備率が6.9%と整備目標の25%を下回っているが、今後の計画的なもの（目標）があれば教えて欲しい。
- ・UDタクシー利用者の乗車拒否が相次いでいる問題について、群馬県内の現状を教えてください。
- ・社会福祉協議会の講演の内容で、「地域住民だからこそできる活動」として「ゆるやかな見守り」活動の例があったが、この中に「困難な（障害を持つ）子を育てている世帯への見守り」も入れることを考えて欲しい。
- ・身体障害の方への理解は進みつつあるが、知的・発達・精神障害といった目に見えない障害を持った方への支援・理解はなかなか進んでいないのが現状である。（例えば、災害時に電車が止まってしまい、その電車に発達障害・自閉症の方が乗っていたとすると、パニックを起こす可能性がある。）そういった時、どういう風に声をかけたらいいのか、どんな特性・困難性があるか関心をもってほしい。そういった部分について事業所での福祉教育をする際は、当事者の状況をよく理解している私共に声をかけて欲しい。
- ・電車やバスには、電光掲示板が付いているものが増えているが、電車の中で万が一災害が発生した場合にはアナウンスが多くあるかと思う。聴覚障害者はそういった時に非常に不安を感じるので、事前に「避難誘導マニュアル」等の作成を行い、駅などで当事者との避難訓練を行う、等企画をしてほしい。
- ・バリアフリーとは、誰にとっても健常者にとっても使いやすい施設が基本であるが、障害者を対象とした移動支援に偏ってしまっている。1年に1回開催されるこの会議で、行政・運輸事業者・色々な団体がバリアフリー社会実現のために何をしていくべきなのか情報交換を継続していくことが大切である。

平成30年度 山梨運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

＜主催：関東運輸局山梨運輸支局＞

- 日時：平成30年11月9日（金）13:00～16:00
○場所：山梨県庁防災新館201・202会議室
○議事（1）バリアフリーの現状と関東運輸局の取り組みについて
関東運輸局
（2）関東地方整備局のバリアフリーの取り組み
関東地方整備局
（3）〈講演〉高齢者等の公共交通における乗換え環境
一般社団法人山梨県視覚障害者福祉協会副会長矢崎 繁様
（4）意見交換

委 員

（敬称略）

- ＜座長＞ 佐々木邦明（早稲田大学創造理工学部社会環境工学科教授）
畠山 哲（一般社団法人山梨県老人クラブ連合会副会長）
芦沢 茂夫（支えあう会「ピーチ&グレープ」代表）
山西 孝（山梨県知的障害者支援協会会長）
矢崎 繁（一般社団法人山梨県視覚障害者福祉協会副会長）
仁科加代子（一般社団法人山梨県聴覚障害者協会事務局長）
竹下 茂（山梨県精神障害者家族会連合会理事）
星合 深妃（NPO法人HappySpaceゆうゆうゆう理事長）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社八王子支社、山梨交通株式会社、富士急行株式会社、富士急山梨ハイヤー株式会社、株式会社富士レークホテル、一般社団法人山梨県バス協会、一般社団法人山梨県タクシー協会
【関係行政機関】山梨県、甲府市、山梨市、韮崎市、南アルプス市、北杜市、笛吹市、上野原市、甲州市、中央市、西桂町【その他】関東地方整備局、関東運輸局

講 演

【一般社団法人山梨県視覚障害者福祉協会副会長 矢崎 繁 氏】「＜講演題目＞「高齢運転者の公共交通における乗換え環境」

バリアフリーの取り組み等

東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社
○「声かけ・サポート」運動を実施中であり、お困りになっているお客様へ社員が積極的に声かけをするとともに、お客様へもお困りの方に対して助け合いのご協力を呼びかけしている。
山梨交通株式会社
○甲府駅南口におけるデジタルサイネージの設置により直近に運行するバス情報を表示し、利用者利便に努めている。
○60歳以上の方、障害者向けフリー定期券を設け、日常の移動手段として、安心したバス利用環境を整備している。

会議での発言（委員より）

- ・電車内の電光掲示板等において、到着駅表示のみならず、運行状況についての表示及び、無人駅において電車の運行状況がわかるような表示を検討いただきたい。
- ・無人駅において、電車の運行状況がわかるような表示を検討いただきたい。
- ・JR鳥沢駅にきれいなトイレを作っていた。大変感謝している。
- ・目的地の最寄り駅が無人駅であること、電動車いすが使用出来ない等により、隣の駅を利用せざる負えなかった。無人駅が多数あることから、何か良い方法がないか検討いただきたい。
- ・都内に出かけた際、JR、メトロの職員に大変親切にいただいた。ありがたい。
- ・地元のコミュニティバスが、バリアフリー対応でなかったが、今はバリアフリー対応の車両になっている。
- ・パラリンピック東京大会が近いことから、県内の市町村及び障害者が集まった会議を開催していただき、対策等を検討していただきたい。
- ・押しボタン開閉式の電車において、戸惑っている障害者等がいたら、全戸開いていただきたい。
- ・平らにすることがバリアフリーと思われる方もいると思うが、視覚障害者にとり、歩道と車道の区別がつかないのは大変怖い。ある道路では2cm程度伸すロープにしてください、視覚障害者も車いす利用者も安心して使えるのでありがたい。
- ・外見ではわからない障害をもっている人もいます。交通事業者は、そのような障害を持っている人に対しても、ご対応いただきたい。
- ・バリアフリー教室について、ほとんどの方が知らない。小さい時から障害者、高齢者の身になる体験は重要である。是非広く周知していただきたい。

平成30年度 栃木運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

＜主催：関東運輸局栃木運輸支局＞

○日時：平成30年11月26日（月）13:30～15:30

○場所：栃木県自動車整備振興会 教育会館 3階会議室

○報告：バリアフリーの取り組みについて

- ・国の取り組みについて
（関東運輸局、関東地方整備局）

- ・関係団体の取り組みについて
（日光市、栃木県タクシー協会、栃木県自動車整備振興会）

○意見交換

委員

＜座長＞大森 宣暁（宇都宮大学地域デザイン科学部 教授）（敬称略）

麦倉 仁巳（一般財団法人 栃木県身体障害者福祉会連合会 会長）

兼目 ちえ子（一般社団法人 栃木県視覚障害者福祉協会 理事）

稲川 直樹（一般社団法人 栃木県聴覚障害者協会 青年部長）

小島 正男（一般財団法人 栃木県老人クラブ連合会 副会長）

坂本 紀夫（栃木県精神保健福祉会 理事）

植村 文恵（栃木県自閉症協会 副会長）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社、東武鉄道株式会社、関東自動車株式会社、ジェイアールバス関東株式会社、アサヒタクシー株式会社、一般社団法人栃木県バス協会、一般社団法人栃木県タクシー協会、一般社団法人栃木県自動車整備振興会【関係行政機関】栃木県、栃木県警察本部、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、日光市、大田原市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、下野市、上三川町、益子町、茂木町、芳賀町、野木町、高根沢町【その他】関東地方整備局、宇都宮国道事務所、関東運輸局

バリアフリーの取り組み等

【日光市 健康福祉部社会福祉課】「日光市バリアフリー推進に関する取組み」

①モデル地区（日光駅～東照宮周辺）におけるバリアフリー現状調査 ②合理的配慮の提供支援に係る助成制度

【栃木県タクシー協会】「栃木県タクシー協会における取組状況」

①タクシー協会の現状 ②ユニバーサルデザインタクシーの導入状況及び補助金 ③乗務員研修

【栃木県自動車整備振興会】「第18回マイカービッグフェスティバル」における取組み事例」

①交通安全思想の普及啓発を目的とする主たる取組み ②社会貢献を目的とする主たる取組み



会議での発言（委員より）

- ・電車開閉ドアの押しボタンの位置がわかりづらいので、音を出したりしてわかりやすくしてほしい。
- ・障害者にとって移動手段が自立につながるが、目的地までなかなか移動できないのが現状である。特にバス・タクシーにおいては、ハード面のみならず、ソフト面の心のバリアフリーにも配慮いただきたい。
- ・交通量が多い横断歩道において、エスコートゾーンを整備していただきたい。
- ・身体障がい者、知的障がい者と同様に精神障がい者にも運賃割引を適用してほしい。
- ・昨年、栃木県においてヘルプマークが導入されたが、県内で見かける機会がなくまだまだ認知されていない。ポスターを掲示するなどして普及啓発できないか。
- ・聴覚障害者が車を運転した場合、緊急車両が近づいた時に気づきづらいので、自動車に緊急車両が来たことを知らせる装置を付けてほしい。
- ・誰もが安心して通れるように、自動車、自転車、歩行者が通る専用道路として3つに分離してもらいたい。

平成30年度 東京運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

＜主催：関東運輸局東京運輸支局＞

- 日時：平成30年11月27日（火）14:30～16:30
- 場所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」7階イベントホール
- 議事：○バリアフリーの現状と関東運輸局の取り組みについて
 - 関東地方整備局のバリアフリーの取り組みについて
 - 高齢者等の公共交通における乗換え環境について
（東京急行電鉄株式会社、東京地下鉄株式会社）
 - 意見交換等

委 員

（敬称略）

- ＜座長＞ 森本 章倫（早稲田大学 理工学術院 教授）
- 小西 慶一（公益社団法人 東京都身体障害者団体連合会 会長）
- 有山 一博（公益社団法人 東京聴覚障害者総合支援機構
東京都聴覚障害者連盟 福祉対策部長）
- 笹川 吉彦（公益社団法人 東京都盲人福祉協会 会長）
- 伊東 とも子（社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
東京都手をつなぐ親の会 研修部会長）
- 柴崎 金勝（公益社団法人 東京都老人クラブ連合会 副会長）
- 栗原 孝実（一般社団法人 東京精神保健福祉士協会 理事）

参画（委員以外）

- 【施設設置管理者等】バス事業者14者、鉄道事業者10者 【関係協会】一般社団法人東京バス協会、一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
- 【関係行政機関】警視庁、区市町村26者、関東地方整備局、関東運輸局

バリアフリーの取り組み等

- 東京急行電鉄株式会社：バリアフリーアプリの活用、ホームドア設置状況、ホーム上安全対策、駅係員によるサービス力の強化 他。
- 東京地下鉄株式会社：お客様モニター制度、都営地下鉄とのサービス一体化、「ベビーメトロ」エレベータールート検索サイトの実証実験 他。

会議での発言（委員より）

- ・ 都営大江戸線のように、電動車イス使用者等が駅係員の介助がなくとも乗降できる環境にしていれば非常に外出しやすくなると思う。
- ・ 高齢聴覚障害者が情報をつかめないのが、駅では見やすいように、混んでいても見えるような位置に情報を掲示して欲しい。
- ・ 視覚障害者転落死亡事故当初は、各鉄道駅では一般乗客の協力を得るべく構内放送で積極的に「声かけ運動」を行っており、非常に効果があったと思うが、時間が経つにつれ構内放送が低調気味になっていると感じる駅がある。
また、学生等が「声かけ」を積極的に行えるように、教育面で「心のバリアフリー」を徹底しないといけないと思う。
- ・ 事故等で電車が遅延した際に、知的障がい者には情報が伝わりにくい場合があるため、声を掛けて教えてくれる駅員さんがいてくれると助かる。
知的障がい者を体験することが難しいので、理解をしてもらうための働きかけが必要だと強く感じた。
- ・ 駅のホームドア、エレベーター、エスカレーター設置の計画を各社で考えていると思うが、少しでも早く進めてくれるとありがたい。
- ・ 駅の乗車位置案内が見づらい駅が多数あるようなので、もう少し大きくしてくれるとありがたい。
東京都の「民間バス乗車割引証」の対象に精神障害が入っておらず、経済的負担が大きいのが現状である。割引区間を増やすなど検討して欲しい。
目に見える障がいに対するバリアフリーは進んでいるが、目に見えない障がいに対するバリアフリーが進んでいないように感じる。
- ・ ICTを活用したものが沢山出てきているが、全員が情報化社会に乗っているわけではないので、見やすい看板を作る・「声かけ」をもっと徹底する等、我々が本来持っている力を上手に使いながら新しい技術と融合させていくことがこれからの課題だと思う。

平成30年度 茨城運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

＜主催：関東運輸局茨城運輸支局＞

- 日時：平成30年11月29日（木）13:00～16:00
- 場所：カシマサッカースタジアム 会議室
- 議事・カシマサッカースタジアム内バリアフリー施設見学
 - ・鹿嶋市におけるバリアフリーの取り組み（鹿嶋市政策企画部政策秘書課）
 - ・国におけるバリアフリーの取り組み
 - ・意見交換

委員

（敬称略）

- ＜座長＞山田 稔（茨城大学工学部都市システム工学科 教授）
- 渡辺 剛秀（茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 副会長）
 - 坂場 篤視（社会福祉法人 茨城県視覚障害者協会 理事長）
 - 吉沢 馨（一般社団法人 茨城県聴覚障害者協会 副会長）
 - 郡司 征樹（一般社団法人 茨城県心身障害者福祉協会 理事）
 - 森實 和子（一般社団法人 茨城県精神保健福祉会連合会 理事）
 - 井寺 弘孝（茨城LD等発達障害親の会 星の子）
 - 有賀 絵理（茨城大学非常勤講師）
 - 高松 志津夫（NPO法人ウィーブ 北茨城代表・地域公共交通マイスター）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社水戸支社、鹿島臨海鉄道株式会社、関東鉄道株式会社、関鉄グリーンバス株式会社、ジェイアールバス関東株式会社、鹿嶋支店、株式会社池田交通、茨城県バス協会、茨城県ハイヤー・タクシー協会、茨城県ハイヤー・タクシー協会鹿行支部【関係行政機関等】茨城県、茨城県警察本部、独立行政法人自動車事故対策機構茨城支所、鹿嶋市、神栖市、潮来市、鉾田市、行方市【その他】関東地方整備局、常陸河川国道事務所、関東運輸局、茨城運輸支局

カシマサッカースタジアム内バリアフリー施設見学

- ・カシマサッカースタジアム内のバリアフリー施設を見学。

バリアフリーの取り組み等

- 【鹿嶋市】「鹿嶋市におけるバリアフリーの取組みについて」
- ・公共交通の視点から、高齢者の足の確保に係る施策などの事例紹介。

会議での発言（委員より）

- ・視覚障害者が安全に歩行移動できるように点字ブロックがより広く設置されると望ましい。
- ・古い施設にはまだ和式のトイレが多く、高齢者が使用できない状況であるのでトイレの洋式化を義務づけしていただきたい。
- ・タクシーを呼ぶ際に聴覚障害者は電話を使えないので、スマホ（QRコード等）でタクシーを呼べるようにしていただきたい。
- ・設備の整備だけでは限界があるので、配布されたコミュニケーションハンドブックのようなツールを使って人の理解を深める必要があると感じている。
- ・高齢化社会が進む中、バス停までの移動手段がないため、改善していただきたいと思う。
- ・自転車に乗りながらスマホを使用する「ながらスマホ」をしている人が多いため、高齢者が安心して歩けない。
- ・一見、普通に見える発達障害の人が何かトラブルに巻き込まれたときに使えるヘルプマークやヘルプカードの周知をもっと積極的にお願いしたい。（発達障害は常にサポートが必要なわけではなく、困ったときに適切なサポートがほしい）
- ・バリアフリー法やガイドラインが改正されても「こころのバリアフリー」を国民一人ひとりに周知徹底していかないと意味のないものになってしまうので、もっとみんなで声をあげて「こころのバリアフリー」の周知徹底をお願いしたい。
- ・電車に車いすやベビーカー用の優先スペースがあるのは非常にありがたいが、付添人用の座るスペースがないので、簡易型の椅子を介助者用として設置していただくとオリパラに向けて更に良くなると思う。

平成30年度 千葉運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

＜主催：関東運輸局千葉運輸支局＞

- 日時：平成30年11月30日（金）14：30～16：30
- 場所：千葉県庁本庁舎大会議室
- 基調講演：日本大学理工学部教授 藤井 敬宏 氏
- 特別講演：千葉市視覚障害者協会 副理事長 高梨 憲司氏
- 議事（1）バリアフリーに関する取り組みについて
 - ・バリアフリーに関する事例紹介（交通事業者）
 - ・国のバリアフリーの取り組みについて（整備局・運輸局）
- （2）意見交換

委 員

（敬称略）

＜座長＞ 藤井 敬宏（日本大学理工学部教授）
小嶋 勇明（千葉市身体障害者福祉会 副会長）
高梨 憲司（千葉市視覚障害者協会 副理事長）
植野 圭哉（千葉聴覚障害者センター 所長）
長谷川 悦子（千葉市手をつなぐ育成会 副会長）
山崎 久之（千葉県精神保健福祉士協会 会長）
伊藤 忠彦（千葉県自閉症協会 理事）
吉野 博一（千葉市老人クラブ連合会 常務理事兼事務局長）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道(株),京成電鉄(株),千葉都市モノレール(株),京成バス(株),千葉中央バス(株),千葉構内タクシー(株), (一社)日本民営鉄道協会, (一社)千葉県バス協会, (一社)千葉県タクシー協会【関係行政機関】千葉県、千葉市、佐倉市、東金市、旭市、四街道市、匝瑳市、香取市、山武市、大網白里市、横芝光町、多古町、千葉県警察本部 【その他】関東地方整備局、千葉国道事務所、関東運輸局

講 演

＜基調講演＞【日本大学理工学部教授 藤井 敬宏 氏】「バリアフリーに向けた市原市の取り組み」
＜特別講演＞【千葉市視覚障害者協会 副理事長 高梨 憲司氏】「視覚障害者に対する合理的配慮について」

バリアフリーの取り組み等

【京成電鉄株式会社】駅のバリアフリー 段差解消・多機能トイレの整備、車両のバリアフリー、心のバリアフリー 他。
【京成バス株式会社】ノンステップバス・リフト付きバス・二階建バスの導入、バス停・待合室の整備、運転士教育 他。
【千葉構内タクシー株式会社】福祉タクシー・ジャパンタクシーの導入、免許返納割引 他。

会議での発言（委員より）

- ・トイレ等もっと利用しやすい動線の工夫が必要。
- ・ヘルプカードを配布している自治体があるが、一般の方に認知されていない。
- ・県立公園などで視覚障害者の利用に考慮したバリアフリー化の推進が必要である。
- ・視覚障害者は視覚に替えて他の残存感覚（聴覚、触覚、嗅覚など）を活用して周囲の情報を得て行動することとなるため、そのため、音や触れること・嗅ぐことのできない情報は得ることができず、また、残存感覚の活用を阻むような騒音などは一層の行動制限をもたらす。
- ・生命に関わる件で、AEDが設置されている駅等で緊急の場合でも使わない事例が出ている。正しい知識の普及をお願いしたい。
- ・地元のバスで利用者と運転手のコミュニケーションがとれているのが素晴らしい。
- ・本日バリアフリーの取り組み状況を聞いて、非常によく工夫されていると感心した。一般の方にもその部分をアピールした方が良い。
- ・自動車免許の返納等で公共交通機関に期待するところが大きい。
- ・ハード面での整備は充実しているが、ソフト面での配慮サービスの充実が求められる。

平成30年度 埼玉運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

<主催：関東運輸局埼玉運輸支局>

- 日時：平成30年12月6日（木）10:00～12:00
- 場所：岩槻駅東口コミュニティセンター多目的ルームC
- 議事：高齢者等の公共交通における乗換え環境
 - ・各団体より取り組み内容の紹介及び埼玉県等各施設管理者への要望
 - ・バリアフリーの現状と関東運輸局の取り組みについて
 - ・関東地方整備局のバリアフリーの取り組み
 - ・意見交換

委員

（敬称略）

- <座長> 高橋 儀平（東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科教授）
- 平野 カ三（埼玉視覚障害者の生活と権利を守る会事務局長）
- 大内 伸一（一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会事務局長）
- 傳田 ひろみ（障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク代表）
- 矢崎 弘美（埼玉親の会『麦』事務局）
- 長岡 洋行（埼玉県発達障害福祉協会会長）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社、東武鉄道株式会社、国際興業株式会社、朝日自動車株式会社、株式会社つばめタクシー、第三交通株式会社、一般社団法人埼玉県バス協会、一般社団法人埼玉県乗用自動車協会【関係行政機関】埼玉県、埼玉県警察本部、上尾市、春日部市、越谷市、戸田市、蓮田市、八潮市、和光市、蕨市【その他】関東地方整備局、関東運輸局

バリアフリーの取り組み等

- 【東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社】
- オリンピック・パラリンピックに向けた駅構内の案内サイン整備
- ホームドアの整備の推進
- 【一般社団法人 埼玉県乗用自動車協会】
- UDタクシーの導入、UDドライバーの講習、乗務員の研修

- 【一般社団法人 埼玉県バス協会】
- ノンステップバスの導入

会議での発言（委員より）

- ・ホームドアの設置の促進、ホーム上に駅員や警備員の配置を増やしてもらいたい。
- ・海外では障がい者専用標識があり、エレベーターで緊急停止したときにも、ボタンを押すと障がいに応じて対応してもらえる。このようなマークを全ての公共交通機関に設置してもらいたい。
- ・UDタクシーを使用した際に、運転手がスロープの扱い方に戸惑い、設置に時間がかかり、乗る際にもスロープが急傾斜だったため、とても怖い思いをした。また、路線バスで、停留所によってはスロープを出すスペースがなく、バスを移動させてスロープを出すなど止まる停留所まで気を遣わないといけなことがあり、まだまだ移動に制約を感じた。
- ・公共交通の乗り換え環境として、駅改札口からバス、タクシー乗り場が離れていて分かりにくい場合があるので、道路に目的地別の色ラインを書いてもらえば、そのライン上を歩いていくと目的地まで行けるので便利。
- ・普通列車のグリーン券は、片道のみだが、障がい者や高齢者は、往復で使いたい人もいるので往復で購入出来るようにしてほしい。
- ・知的障がいのある方が、公共交通機関を利用する際にお金の支払いが上手いかなかったり、降りる時に、もたついて時間がかかってしまうと、乗客や運転手から一言言われてしまうことにより、公共交通機関には乗りたくないとなることもあるので、障がいに関して理解を深めていく取り組みが大切。

平成30年度 神奈川運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

＜主催：関東運輸局神奈川運輸支局＞

- 日時：平成30年12月10日（月）15:00～17:00
- 場所：神奈川県トラック総合会館7階大研修室
- 講演：横浜国立大学理事・副学長 中村 文彦 氏
関東運輸局消費者行政・情報課 課長 遠藤 幸 氏
- 意見交換：講演、各委員からの意見・提案に関する意見交換
- 情報提供：整備局のバリアフリーの取り組みについて

委 員

（敬称略）

- 中村 文彦（横浜国立大学 理事・副学長）〈座長〉
- 金子 晴由（公益財団法人横浜市老人クラブ連合会事務局次長）
- 戸井田愛子（公益財団法人神奈川県身体障害者連合会会長）
- 鈴木 孝幸（特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者福祉協会 会長）
- 河原 雅浩（公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 事務局長）
- 坂田 信子（横浜市中心身障害児者を守る会連盟事務局長）
- 吉富 多美（認定特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド理事）
- 清水 弘子（特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク理事長）

参画（委員以外）

- 【施設設置管理者等】鉄道事業者11者 バス事業者9者 タクシー事業者5者
- 【関係団体】一般社団法人神奈川県バス協会、一般社団法人神奈川県タクシー協会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部
- 【関係行政機関等】神奈川県、神奈川県警察本部、神奈川県内各市町村、関東地方整備局、関東運輸局

講 演

- 【横浜国立大学 理事・副学長 中村 文彦 氏】「＜講演題目＞高齢者等の公共交通における乗換え環境」
- 【関東運輸局消費者行政・情報課】「＜講演題目＞バリアフリー法の改正について」

バリアフリーの取り組み等

- 『福祉ニーズに応えるタクシー利用推進プロジェクト』
- 【主催】一般社団法人 神奈川県タクシー協会／特定非営利活動法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク 【協力】神奈川運輸支局
- 【趣旨】UDタクシーの導入及びUDドライバー研修を実施しているが、知的障害児者への対応は十分な実績をつくるには至っていない。
障害当事者家族、事業者などとの意見交換を行い、中間支援組織が介在することでタクシー事業者の福祉対応への意識向上と、利用者が安心して利用できる環境整備に具体的に取り組んでいく。
- 【最近の取組】障害当事者家族向けにUDタクシーの試乗会を実施

会議での発言（委員より）

- ・大きな鉄道駅は構造が複雑でわかりにくい、最近の空港のように、床にはっきり行き先の方角を書く等、視覚的にわかりやすいサインを取り入れていただきたい。
- ・駅や電車内で、放送による案内はあっても文字の案内が無い等、聴覚障害者向けのコミュニケーションの取り方や案内の方法について、不十分な例が見受けられる。
- ・関西では障害者割引に対応したICカードが普及しており、神奈川でも普及するとよい。
- ・無人駅で内方線付き点字ブロックが付いていない所が多数あるため、設置していただきたい。
- ・利用客の多いところからホームドアが設置されているが、本当は無人駅の方がホームドアが必要である。
- ・無人駅には自動改札があまりなく利用しにくい。
- ・電光掲示板の表示内容をもっと細かくしていただきたい。
- ・バスの停留所でしっかり正着されていなく、一旦車道に降りてバスの乗降をしなければいけない場合がある。
- ・地方のバスだと行き先等の表示が全く無いものがあるので、改善して欲しい。
- ・タクシーの車内に筆談出来るような道具を備えていただきたい。